

1 投稿者

(1) 氏 名：C さん

(2) 勤務先：秋田県自治体

2 投稿記事本文

私は、令和4年に定年退官となり、令和5年から自治体の会計年度任用職員として勤務しています。

3 自治体職員を選んだ理由

一つ目は、地元就職したかったからです。私は陸曹時代自宅から駐屯地まで片道100kmを自動車通勤していました。当時は、部隊もしくは近傍に泊まることもしばしばで、単身赴任も経験しました。若さもあり日々の眠気にも負けず通うことができ、家族の理解、協力もあって職務に専念できましたが「負担を強いているのではないか」という後ろめたさが常にありました。特に冬は豪雪地帯のため、妻には体力的負担をかけていたと思います。こんなことから、退職後は時間の余裕と自宅管理ができる近傍に勤めたいと思うようになりました。二つ目は、生活の安定です。特に、家族を扶養していることから厚生年金は絶対の条件としましたが、大概の会社であればクリアするものの、中には国民健康保険、国民年金の条件のところもあり慎重な選択を心掛けました。今後、体力的な衰えを考慮すると安定した公的な仕事に就きたいと思うようになりました。三つ目は、自衛隊のスキルを生かせる仕事がしたいと思ったからです。陸曹時代は現場で仲間とともに、厳しい訓練や任務などをチームで達成することに喜びを感じていました。中隊や小隊への帰属意識がとても高かったことを覚えています。業務の企画、調整、管理などを通じて自らの考えを具現化することに喜びを見出していました。出来れば再就職後もこの喜びや達成感を味わえる仕事をしたいと思うようになりました。転機となったのは、「地域防災マネージャー」の取得資格が緩和されたことでした。ここで、私の中で地域防災マネージャー資格を取得して地元自治体の防災職に就職でき

ないかという思いが生まれました。幸い、勤務経験から災害対応の視点と対応要領を学ぶことができ、また、豪雪被害での災害派遣の活動実績もあり、援護センターを通じて採用担当者と面談する機会を得ました。

4 会計年度任用職員の仕事内容

平素は、防災職の補助者として消防団の人事、表彰、訓練、研修、行事の計画や事務処理、自主防災組織に係る会議、研修の実行、国民保護に係る業務などを行い、災害時は、防災係として対策本部の運営にあたります。秋田県の豪雨災害の対応では、警戒部を設けて一部地域に避難所を開設し、地域住民に避難を呼びかけました。幸い大きな被害もなく早期に体制を解除できましたが、対応に当たる人員が少なく不安を感じます。皆さんは能登地震などの大規模災害の時なれどもっと早く対応できないのか不思議に思ったことはありませんか。それには自治体の現状があります。自治体は皆さんの暮らしを守るのが仕事です。戸籍や福祉、税務、建設、農政、水道、産業振興、生活相談など普段つつがなく生活できるようにするのが生業です。予備要員はいません。人口に合わせて必要最低限の人員で対応しています。災害時は防災担当のみならず、それぞれの担当も対応にあたりますが、恒常業務がなくなるわけではありせんので業務過多になります。このため、協定等を結んで相互に助け合う仕組みを作っていますが、いざ支援要員が来ても地元のことは地元自治体の人間でなければできないことも多々あります。現場と事務処理を並行して進める必要があり、業務が多ければ対応に遅れを生じます。訓練では恒常業務を考慮しないと住民生活に影響がでます。また、消防団の精強化を目指して訓練を多くすれば出場手当がかさんだり、なかなか難しい現状があります。だからこそ自衛隊で得た経験と知識、「任務分析」が役立ちます。

5 終わりに

ここまでに色々な方のお世話になっております。「お蔭様」という言葉を忘れてはならないと思いま

す。今の仕事の目的は住民の生命と財産を守ることです。そのためにもじっくりと焦らず、職場のやり方を尊重し、学び、習得し、自らの工夫を加えながらより良くなるよう励みたいと思います。